

# 第2回平和作文コンクールを開催

浄土宗平和協会では、浄土宗宗立・宗門高等学校に在籍している生徒を対象にした、第2回平和作文コンクールを開催した。

本事業は、次代を担う高校生の「平和」への想いや考え等々を知り、浄土宗寺院ならびに教師が、若い世代に対し「平和」について働きかけるために今後取り組むべきことを見つけることを目的として、昨年度から実施し今年度が2回目となる。

昨年6月に、東海高等学校、華頂女子高等学校、東山高等学校、上宮高等学校、上宮太子高等学校、酒田南高等学校、正智深谷高等学校、淑徳与野高等学校、淑徳巣鴨高等学校、淑徳高等学校、淑徳S C高等部の11校を対象に募集、34作品が寄せられた。

応募作品に対し、今年度も学校法人佛教教育学園中等教育プロジェクトマネージャー・福地信也先生を審査委員長に、正副理事長、事務局長の5名で厳正に審査をした結果、総裁賞1名、副総裁賞2名、理事長賞3名、学校賞1校を決定した。

表彰は、該当生徒が在籍する高等学校において、学校長から栄誉を讃え表彰状を授与していただき、応募者全員に参加賞を配布した。

今号では、全受賞作品を掲載し顕彰すると共に、趣旨の通り高校生の「平和」への想いや考えに触れていただければ幸いである。

## ○応募状況

- ・上宮高等学校……………20作品
- ・東海高等学校……………12作品
- ・酒田南高等学校………2作品

## ○審査結果

- ・総裁賞（1名）  
上宮高等学校3年生・半田捺稀さん
- ・副総裁賞（2名）  
東海高等学校1年生・細川貴生さん  
上宮高等学校3年生・市園結梨さん
- ・理事長賞（3名）  
酒田南高等学校3年生・福田あかねさん  
東海高等学校1年生・下坂元潤生さん  
上宮高等学校3年生・田中絢乃さん
- ・学校賞（1校）  
上宮高等学校

新型コロナウイルスは、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。長期臨時休校、外出自粛等を経験し、マスク着用、密を避ける暮らしが求められている。夏休みは大幅に短縮され、旅行等も控え、夏の楽しみを奪われた。感染症に脅かされ、当たり前だと思っていた日常生活は、決して当たり前ではなく、感謝すべきものだと言付かされた。この経験は、人々の日常を根こそぎ奪う戦争の理不尽さについて、深く考える機会となった。太平洋戦争中、人々は穏やかな暮らしを破壊され、食べる物、着る物もなく、言論も制限された。七十五年前、日本には人類史上、最も残酷な夏があった。広島、長崎に原爆が投下され、一瞬にしてこの世の地獄と化した。原爆は、多くの市民の尊い命を奪い、奇跡的に生き延びた人々さえも、絶望に追い込んだ。後遺症という肉体的な苦しみに悩まされ続け、更に、偏見、差別という精神的な苦しみを受けた。結婚や就職では特に差別が酷く、被爆の事実を隠し続けて暮らした人も少なくないそうだ。

## 平和な日常生活の尊さ

東海高等学校 1年

細川貴生

被爆者に対する偏見、差別があったことに憤りを感じる。人間は、何故こんなにも身勝手な残酷なのだろう。コロナ禍においても、感染者やその周囲の人に対する偏見や差別、誹謗中傷が相次ぎ、自粛警察という言葉が飛び交っている。全ての人が穏やかに暮らせる事が平和だと思う。差別をすれば争いが起きる。平和は他人を思いやる心から生まれる。人類が新型コロナウイルスの脅威に直面している今、求め

られるのは、人々や国々の支え合いと協力である。国を守るためにと、より強力な兵器を国々が求め、その結果、人間を無差別に殺戮する核兵器が作られた。コロナ危機を乗り越えるためには、核兵器は何の力も持たない。世界は今こそ結束し、国際協力をしていく必要がある。人々に恐怖を与えるコロナウイルスを人間は完全に抑えることはできないかもしれない。しかし、核兵器は人間の手で完全になくすことができる。原爆投下は、道義に悖る行為であると私は考える。正当化できる戦争などない。戦争は人間の意思で人間の上に落とされた。私は、中学の修学旅行で、広島の話り部の方から被爆体験を聞かせていただいた。語り部の方々は、思い出したくないはずの辛い体験を語ってくださり、命ある限り、原爆の恐ろしさを伝え、平和に尽力して下さっている。被爆者の高齢化が問題となっている。私達は、被爆体験者から直接話を伺うことができる最後の世代であり、更にコロナ禍で日常の大切さを知った。そんな私達だからこそ、自分の耳で聞き、心で感じた戦争の無意味さ、原爆の非人道的性、残酷さを語り継ぎ、平和の尊さを世界に発信していく使命があると考えます。残酷な形で広島、長崎の人々から日常を奪ったあの惨劇が、世界のどこにも二度と起きてはならない。全世界の未来の平和を切に願い、核兵器廃絶を強く求めていきたい。

## 副総裁賞

平和とは何か。私はそう問われてもすぐには答えられなかった。戦争のない世界か。いじめのない世界か。もちろん両方間違いではない。戦争は誰のことも幸せにしない。住んでいた場所は一瞬にして焼け野原となり、家族とは離れ、空襲に怯えながら日々を過ごす。大切に育てあげた息子はお国のためにと命を投げる。こんな世界は平和だと言えるわけがない。平和は知っている日本では戦争のことをよく知らない、知ろうとしない人がいることも事実だ。現代の日本人は二度と世界中が悲しみに溢れてしまうような出来事を繰り返さないために、風化させてしまわないために、戦争についてより深く知る必要があると私は考える。

## 平和について

上宮高等学校 3年

半田捺稀

だがしかし、戦争がなくなればこの世界は平和になるのだろうか。私はそうは思わない。もちろん、戦争がなくなる事はとても素晴らしいことだと思う。しかし戦争のない日本でも毎日のように悲しみに暮れ、助けを求めている人々がいる。戦争がなくなると、こんなにも苦しいのだ。それならば、どうすれば「平和」になるのだろうか。そもそも「平和」とは何なのか。一概に言うことはとても難しいことだが、あえて言葉にするのなら、「明日に希望が持てること」だと、私は思う。戦争がなくとも明日に希望が持てない、明るい未来が描けない、そんな状態が平和だと言えない。

私自身、友だちだと思っていた人たちから度を超えたからかいを受けていた時は明日に希望が持てなかった。平和だと胸を張って言うことができなかった。こんなことは、平和な日本で起きている中の本当に小さな小さな出来事だと思う。自殺や虐待、貧困や買春、そんなことが日常的に行われている世界で、明日に希望を持てる人はそう多くはないのではないかと感じる。もちろんこれは私が考える平和であり、感じ方や考え方は人それぞれだが、どうすれば私の考える「平和」に少しでも近づけることができるのかを考えていこうと思う。私は平和に近づく第一歩は「知ろうとすること」だと考える。明日に希望の持てない人々の抱える複雑な問題の全てを理解することはとても難しいことだが、知る努力をすることは自分自身の無意識を自覚し、意識を変えていくことで少しずつ平和へと近づいていくことができるのではないかと考える。私自身も知る努力を怠ったため、人を無意識に傷つけてしまったこともあると感じているため、小さいな場面でも「知ろうとすること」を日々大切にしていきたいと考える。平和というものは、一言で表すことができるようなものだが、一人一人が過去やこれからの課題、他者のことそして自分自身のことを知ろうとすることで何かが変わるきっかけになると考える。現実から目を背けず、向き合うということ大切にしていきたいと私は思う。

## 総裁賞

今、この世の中では様々な形で、いじめや嫌がらせなどで苦しい思いや辛い思いをしている人が沢山いるはず。中には、見た目でいじめられたり、差別や、友人関係で上手くいかないという人もいます。人はどうしてそのような嫌がらせをするのでしょうか。私たちは当然、そのように思いますが、やはり人間ですから、みんな違います。優しい人だけでなく、中にはそのようなことをする人もいます。可愛い子もいれば、可愛くない人もいます。誰だってみんな違います。私も小さい頃は太っていたし、見た目も良くない。クラスの男子に「ブス」やら「デブ」やら散々言われたことです。自分ではわかりきっていることでも、傷つくものは傷つきます。学校に行きたくないと思ったこともあります。周りに可愛いくてキラキラした子が沢山いる中で、私は何かとても惨めに感じとても悲しかったです。でも当時は何かメンタルが強く、気がつけば辛いということとはなくなっていました。でも中にはそれがとても傷つくという人もいます。みんながみんな強いわけではないので、そのように言う人も気をつけてほしいし、いじめや嫌がらせが無くなってほしい。そう思います。

私の将来の夢は、美容関係の仕事に就いて人を綺麗にし、笑顔にさせることですが、その職業は、そのような

### 変えたい

酒田南高等学校3年

福田あかね

いじめや嫌がらせを受けて辛い思いや悲しい思いをした人を元気づけたり、勇気づけたりも出来る職業だと思っています。個人的に髪を弄ったり、メイクをしたりする事が好きだからこの職業で働きたいと思っていただけ、良く考えてみると、人を綺麗にするだけでなく人に勇気を与えられる素敵な仕事だと思っています。私はその職業に就いて、世の中の人々を綺麗にするだけでなく、勇気を与えられるような人になりたいです。人は努力をすれば変われるということも教えていきたいです。

今、世の中ではそのような苦しく辛い思いをしている人が沢山いるということもみんなにも知って欲しいです。私は美容の仕事で何かできることを見つけ、取り組んでいき、少しでも苦しんでいる人を助けてあげたいと思いました。他の人も自分から進んでできる事をして欲しいと思いました。いじめや嫌がらせがない世界を目指して、みんなが努力するべきだと思います。

私が思う平和の条件は二つあります。一つ目は言いにくいことを恐れずに言えることです。家庭内の小さなことから国際的な大きなことまで、規模に関係なく発言することは世の中をより良くしていくためにはとても大切です。しかし、ただ発言をすれば良いわけではありません。相手も自分の意見、立場をはっきりさせることが必要です。話し合いをして、折衷案を見つけたり相手もしくは自分の考えを改めたりして、できるだけ良い方に近づけようとする事によって、話し合いをした人々の意識が少なからず変わると思います。そして意識が変わるといことは、物事を広く、別の視点から見つめることができるようになるので、平和を維持するためには欠かせないものだと考えています。その第一歩である、発言ができる、人の話に耳を傾けられる世の中はすなわち平和であると考えました。二つ目はお互いを認め合い、許せることです。世界には、見た目も生活習慣も思想も性格も違う人がたくさんいます。自分とは違う人達を追い込んだり見下したりするから戦争やテロ、いじめなどの悲しい出来事が起こってしまうのです。お互いを認め合い、好き嫌いは別として自分と何もかも違っても存在して良い、十人十色で良いという気持ち、できるかぎり仲良くしようとする気持ちを持つことが平和へとつながります。また、私はけんかをしないことが平和であるとは考えています

### 平和とは何か

上宮高等学校3年

市園結梨

ん。生きていけば他人との衝突は避けられませんが、けんかというのは相手や自分の考えが違うから起こるものなので、それをしないということは、意見のすり合わせや偏った見方を直す可能性を捨てているのと同じであると考えています。平和とはけんかをしてもお互いに謝ることができて、許しあえることだと考えています。もちろん暴力やむやみに衝突するのはいけません。 「雨降って地固まる」と言いますが、より相手の考えを理解するきっかけとなる場合もあるのでないでしょうか。恐ろしいのは許しあえずそのままにしておくことです。そこから相手に対する偏見が生まれ、てしまいます。そうなるといじわるをしたり優越感にひたるための行動を起こす可能性があります。許すとは相手を信じ、認めることです。自分が間違いを犯したならば誠実な態度を、相手が犯したならば寛容な態度をとることでその気持ちがきつと相手にも伝わって、歩みよろうとしてくれるはず。皆が皆の全てを認めあい、許し合うことができればより相手を知れ、偏見を持つことなく手を取り合うことのできる日が来ると思っています。そして、その状態が平和であると私は考えています。以上の理由から、私は言いたいことを恐れずに言えること、お互いを認めあい許せることの二つが平和だと考える条件であると思っています。



理事長賞

第	2	回							
平	和	作	文	コ	ン	ク	ー	ル	

終戦から七十五年が経った今、世代交代が進み、当時の記憶は失われつつある。日本人には現在、比較的恵まれた環境の中で生活しており、特に現代の若者にとっては、それがむしろ当たり前のこととなり、戦争は身近なものではなくなっている。戦後、誰もが世界の恒久的平和を望み、二度と戦争を繰り返さないように求めたが、このように世代交代が進めば、当時の記憶は徐々に薄まり、いつか失われ、戦争を認めるようになる時代が来るのかもしれない。

これは大変悲しいことだ。このような事態になることは私たちが何をしても防いでいかなければならない。既に当時のことを知る人は少なくなってしまったが、私たちは戦争の経験を忘れずに、戦争を明確に否定する力を持ち続けるべきだ。これは未来を託された私たちの義務と言っても良いだろう。

さて、「平和」という言葉はしばしば、「戦争状態ではない」ことを指す言葉として理解されるようだ。しかしこれは正しい解釈だろうか。無論、言葉の解釈には正誤などないのだろうが、自分はこの解釈について違和感を覚えた。なぜなら、戦争状態でないことは平和であるために必要な条件であるが、戦争状態でないからと言っていつも平和であると限らないからである。

平和という言葉は、実に様々な意味を含んでおり、これを一言で表すことは不可能だ。国際間の関係についての平和、人種差別のない平和、貧困のない平和、あるいは身近

### 平和の追求

東海高等学校1年

下坂元潤生

な友人関係や家族関係における平和というものもある。これらの平和は今、決して全て実現しているとは言えない。世界に目を向ければそれは明らかだ。未だに戦争や内戦は絶えず、黒人に対する差別が行われ、病氣と貧困で苦しむ人々は多くいる。

日本はどうだろうか。そのような国々に比べると、日本人は恵まれた環境で生活している。だから日本は「平和」だろうか。いや、そんなことなどどうでもよいのだ。問題の本質は、私たち日本人が今何をすべきか、ということだ。日本が戦争を放棄して、穏健な国家を実現しようが、世界には依然として様々な解決すべき問題がある。「平和」を目指すのであれば、私たちは世界で起こっていることにも目を向けて、その解決に尽力すべきだと思う。

恒久的な「平和」を実現するのは、ほぼ不可能に近い。しかし自分は、平和を追求する過程に意味があると考える。世の全ての人々が、平和を実現するために、一歩ずつ前進していくことを願わんばかりである。



理事長賞

第	2	回							
平	和	作	文	コ	ン	ク	ー	ル	

平和を実現するためには何が必要でしょうか。そもそもどのような状態が平和と言えるのでしょうか。大切な人がそばにいてお腹いっぱいご飯を食べれるというようなマイクロな視点から考えることもできるでしょうし、戦争や紛争、貧困が世界からなくなるといようなマクロな視点から考えることもできるでしょう。私は平和について考え、実現していく上でマイクロな視点とマクロな視点の両方が必要であると考えています。

まずマイクロな視点から平和を考えていくことにします。マイクロな平和とは先に述べた以外にもどのような例が挙げられるでしょうか。お金がたくさんある、仕事ができる、など数え切れないほどあると思います。マイクロな平和はこの世で生きている人間の数だけ存在します。それら全ての平和を実現するのは非常に難しいです。ではより多くの人々が幸せに平和に暮らせるためにはどうすればよいのでしょうか。私はやはり、人と人との絆が重要だと思います。第一に人間は社会性のある生き物であり誰かの支えがないと生きていくことができないからです。第二に誰かと絆を結ぶということはお金を必要とせず、多くの人が実践しやすいからです。では具体的にどのようなことをすればよいのでしょうか。私はごくあたり前の日常の場面における人との関係性で十分だと考えています。毎日行くスーパーの店員さんとのたわいもない会話であったり、毎朝花に水やりをしている隣近所さんとの会話であったり、もっとささいなことだと電車でお

### マイクロな平和とマクロな平和

上宮高等学校3年

田中絢乃

ば皆さんに席をゆずるだけでもいいと思います。日常の短い時間の中でも、その世界の片隅の小さな空間には確実に平和が存在しています。

しかし、やはり世界全体での平和の実現を考えるとそれだけでは難しい部分もあります。日々命の危険にさらされているような人々には、他人のことを考えている余裕はありません。ここで必要になってくるのがマクロな視点からの平和です。マイクロな平和は数え切れないほどありますが、マクロな平和は戦争、紛争、貧困が世界からなくなるということに尽きると思います。それらをなくするために必要なもの、それはやはり経済の発展です。経済の不況や貧しさは戦争や紛争を引き起こします。そして戦争に負けた国は貧困に陥ります。これは人類の長い歴史における多くの悲劇が物語っています。では具体的にどうすれば良いのでしょうか。私は先進国が貧しい国々に資金援助をし、経済発展を促すことが重要だと考えます。多くの富を持っているものは貧しい人々にその富を分け与えるべきです。現在先進国で核兵器開発にあてている多額の資金を貧しい国への資金援助に当てれば、世界は大きく平和へと近づけるはずですよ。

以上のことから、私はマイクロな平和とマクロな平和の両方が世界平和には必要だと考えます。マイクロな平和とマクロな平和が共に実現された時、世界の平和が実現するのです。